

## 雌阿寒火山ガス観測結果

96-1 火孔噴煙の mini-DOAS による SO<sub>2</sub> 放出量の測定、多成分携帯型センサーによる化学組成の測定を行った。

SO<sub>2</sub> 放出量は 2003 年 7 月から 2004 年 6 月にかけて約 4 倍に増加している。

組成も SO<sub>2</sub> 濃度が約 5 倍に増加しており、放出量の増大と調査的である。H<sub>2</sub>O と CO<sub>2</sub> はほぼ一定であるのに対し、HCl、HF の増加も顕著である。

SO<sub>2</sub>、HCl、HF など酸性成分の増加は一般的には噴煙の高温化と共に起きる場合が多いが、赤外熱映像装置で推定された噴煙孔温度は昨年よりむしろ低下している。

SO<sub>2</sub> 放出量の増大と化学組成の変化が観測されたが、その原因はよくわからない。今後、これらの変化が継続的なことかどうかも含めて、注意深く監視する必要がある。

表 1 SO<sub>2</sub> 放出量

Location	Date	SO <sub>2</sub> Emission Rate (t/d)			Method
		average	max.	min.	
雌阿寒 96-1	03.7.9	2.7	4.8	1.4	traverse
雌阿寒 96-1	04.6.29	11.8	16.4	7.5	traverse

表 2 噴煙組成から推定した火山ガス組成

Location	Date	Temp. (.C)	H <sub>2</sub> O	CO <sub>2</sub>	H <sub>2</sub> S	SO <sub>2</sub>	HCl	HF
			μmol/mol					
雌阿寒 96-1	03.7.9	390	984 591	14 178	788	394	45	4
雌阿寒 96-1	04.6.29	367	978 180	18 785	236	2 291	483	26